

☆王であるキリスト(11月26日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります

第一朗読 (エゼキエルの預言 34章 11-12, 15-17節)

まことに、主なる神はこう言われる。

見よ、わたしは自ら自分の群れを探し出し、彼らの世話をする。牧者が、自分の羊がちりぢりになっているときに、その群れを探すように、わたしは自分の羊を探す。

わたしは雲と密雲の日に散らされた群れを、すべての場所から救い出す。わたしがわたしの群れを養い、憩わせる、と主なる神は言われる。

わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。しかし、肥えたものと強いものを滅ぼす。わたしは公平をもって彼らを養う。

お前たち、わたしの群れよ。主なる神はこう言われる。わたしは羊と羊、雄羊と雄山羊との間を裁く。

第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙 I 15章 20-28節)

皆さん、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂とされました。死が一人の人によって来たのだから、死者の復活も一人の人によって来るのです。つまり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。ただ、一人一人にそれぞれ順序があります。最初にキリスト、次いで、キリストが来られるときに、キリストに属している人たち、次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。キリストはすべての敵を御自分の足の下に置くまで、国を支配されることになっているからです。最後の敵として、死が滅ぼされます。すべてが御子に服従するとき、御子自身も、すべてを御自分に服従させてくださった方に服従されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです。

福音朗読 (マタイによる福音書 25章 31-46節)

そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊を左に置く。

そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のために見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』

すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』

そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渴いたときに飲ませず、旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のために、牢にいたときに、訪ねてくれなかったからだ。』

すると、彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渴いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』

そこで、王は答える。『はっきり言うておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

ようやく寒くなりましたね。今日は年間の最終主日です。教会の暦は11月と12月の間で切り替わります。そしてその最終主日には「王であるキリスト」が祝われ、神の国の現れが告げられすべての人が神の前に出てその生涯の報いを受けることがキリストの言葉によって告げられるのです。つまり、神の救いが大団円を迎えるのです。多くの人にとって救いの祝福が告げられるのですが、神の恵みを拒否する人、つまり隣人への愛を拒否した人にとっては、キリストの厳しい言葉が待っているのです。

第一朗読 (エゼキエルの預言 34章 11-12, 15-17節)

ここでは主御自ら、自分の羊の群れを探す様子が語られています。主が何のために人間を創造されたか、ここにその答えがあるようです。つまり神は人間をこの世の悪から導き出し、「私が私の羊の群れを養い、憩わせる」ためと、エゼキエルは語っています。私たち一人ひとり決して失われて良いものではなく、いわば神の愛の絶対的な対象なのです。また、「私は失われたものを尋ね求め、連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする」と言われています。まさにキリストの姿そのものです。

第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙 I 15章 20-28節)

「キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられた」。この言葉は復活したキリストによって回心したパウロだからこそコリントの教会の信徒に言えた言葉でしょう。このキリストが世の終わりにご自分を信じた人々すべてを復活させ、御父のもとに導き入れられるのです。ここにはイエス・キリストの使命そのものが語られています。つまり、人々を悪の支配から解放し、神を愛する人々を救い出し、御父のもとに連れ戻すという使命です。

福音朗読 (マタイによる福音書 25章 31-46節)

マタイによるキリストの審判の様子が語られます。その基準は何でしょうか。それは人々の前に称賛される善いことではなく、神のみに知られる隣人愛です。「いつしたのでしょうか?」、「いつしなかったのでしょうか?」という人々の言葉は何を指しているのでしょうか。イエスは「右手の指がしていることを、左手の指に知らせるな」と言われています。意識的にする隣人愛ではなく、無意識のうちに行う隣人愛になるまでのことを指しているのです。大きな音を立てて賽銭箱に大金を入れることではなく、なげなしの小銭をそっと差し出したあの貧しい婦人のようにです。神の愛は細部に宿っているのです。



聖書週間最終日 (もう一度神のことばを・・・)

P.S.

神の国に入るのは毎日の地道な隣人愛によるのです。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光